パターン
21

人の手が加わる余地

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

美化・花植えが行われるまちかどの空間（鹿ノ台）

環境美化や自然保全、まちづくりの活動をはじめ、人の手が加わることでぬくもりのある、いきいきとした景観が生まれます。地域の人々が近隣の道路や公園に花を飾ったり、清掃をしたりする事例が増えています。

地域の人々によって飾られた公園（光陽台）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○公共建築や道路、公園などの公共空間ははじめからつくり込みすぎず、地域住民がかかわる余地を残しましょう。植栽したり、自ら管理できる場所をつくりましょう。

住宅地の入口部分を住民の手で飾る（あすか野）

公園前の敷地を住民の手で管理する（俵口町）

コミュニティパーク事業

生駒市では地域の公園をリニューアルするときに、住民が参加して一緒に考えるコミュニティパーク事業という制度があります。自治会などで応募を考えてみてはいかがでしょうか。

ワークショップで考えた公園のデザイン

関連するパターン

こちらも参照してください

- **１０　人が交わる場所**
- **２４　表出する緑**
- **２６　しきりとつなぎ**
- **２９　仮設の風景**
- **３１　記憶の風景**

パターン
22

人にあった尺度

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

人にあった尺度でつくられている生垣（北新町）

建築技術が発展してマンションなどの大規模な施設が建てられる以前は、基本的に全て人の手によって住宅などがつくられていました。そのため、自然と人にあったほどよい尺度で空間が形づくられていたのです。

そうしたスケール感は、主に農村地域を中心に読み取ることができます。高低差のある地形が多い生駒では、自然に逆らわない、無理のない方法で土地を利用してきました。敷地の中でも人が行き来しやすいような分節化がなされるといった工夫がなされています。棚田も、土地を人にあった尺度に応じて分節し、利用した例といえます。

人の力の及ぶ範囲で自然と向き合い、自然の摂理に逆らわない暮らしの中から自ずと生まれてきた空間利用のルールは、水利や防災の面でも理にかなったものです。

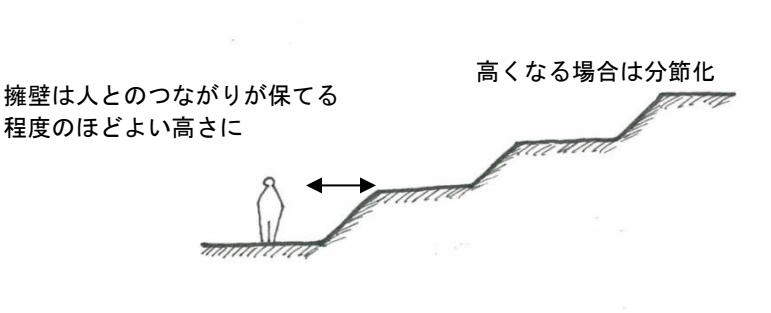
人の尺度にあった地形の利用・棚田（西畑町）

同じ敷地でも人が通る尺度で分節化（菜畑町）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○集落や住宅地の中にある人にあった尺度の道沿いでは、その尺度を損なわないようにしましょう。大きな擁壁を建てるなど、人にあった尺度を断絶するような行為は避けましょう。

○大きな擁壁や壁面を避け分節化するなど、できるだけ人にあった尺度の空間計画としましょう。



関連するパターン

こちらも参照してください

- **１１　曲がった道**
- **１２　坂道の見上げと見下ろし**
- **２８　生駒石**

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○人にあった尺度を大きく超える構造物は、見た目にも圧迫感を与えます。大きな壁面、柵、法面などは分節化などの工夫をし、見た目の圧迫感を軽減しましょう。

法面を分節化し、緑化を施した例

○大きな壁面、柵、法面などは、分節化することでできるだけ人にあった尺度に近づけるようにするとともに、緑化を取り入れて印象を和らげる工夫を行いましょう。

敷き際を人にあった尺度に合わせた工場の例

パターン
23

期待感

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

奥まった空間のつくりが、先への期待感を抱かせる（宝山寺参道・門前町）

奥にあるものが見えないとわたしたちはその先にあるものを想像して、そこに期待感を持ちます。例えば、道が曲がっている場所や突き当たりの場所などの先が見通せないところでは、視界が開ける予感が高まり、期待感が生まれます。

生駒駅の駅前から続く宝山寺の参道は、寺院に近づくにつれて商店街、住宅街、旅館街と連続してまちなみの趣が変わり、歩いて行くにつれて気持ちが高まっていきます。登りつめるようにつくられたこうした空間が、参道の奥にある聖なる場所を期待させて、参詣という体験をより印象的なものにしています。

駅前から続く商店街

坂道の旅館街

山上の寺院に到着

宝山寺参道の景観の変化

萩の台集落内の景観の変化

生駒駅前にあった宝山寺の一の鳥居

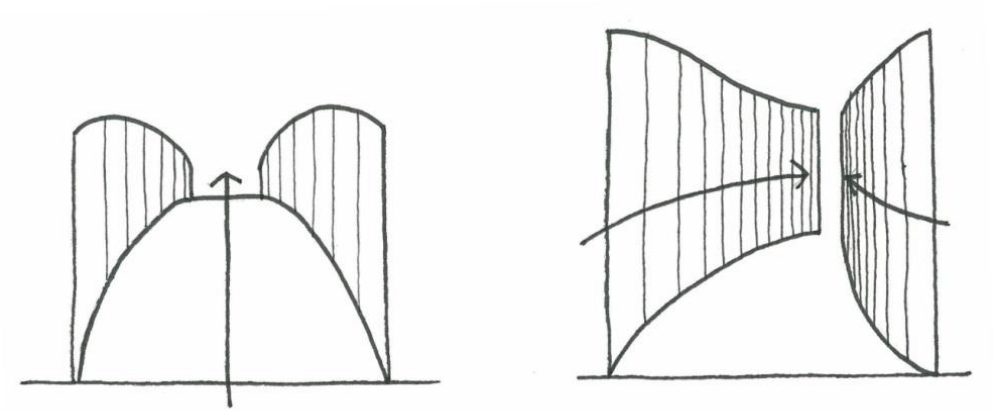
当時、一の鳥居は生駒駅南口の参道筋の入口にありました。駅に降り立った人はこの鳥居を見て宝山寺への期待感をふくらませたのではないでしょうか。

その後、生駒駅南口の再開発事業とあわせて、宝山寺へ移設されましたが、鳥居があった証拠として、円柱のモニュメントが設置され、当時の記憶を留めています。

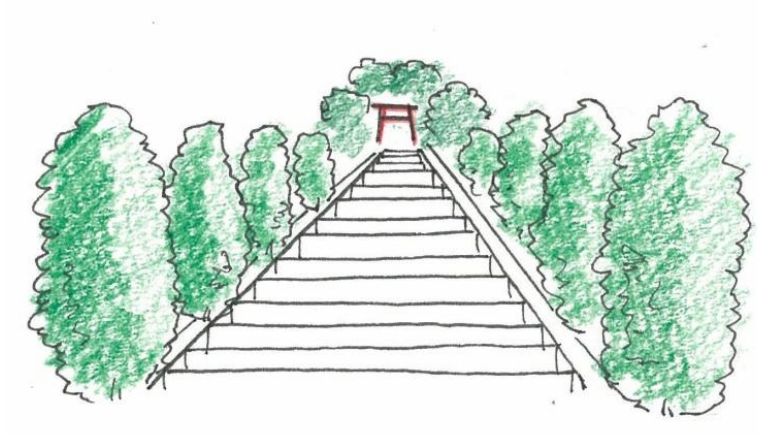
【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○通りに沿って連続的に変化する景観（シークエンス）を意識し、期待感が高まるような奥の空間の特徴を暗示するデザインとするなどの工夫をしましょう。

○敷地内でも通りから直接施設が見えないよう配置したり、植栽による見え隠れを工夫することで期待感を高めることができます。



連続する景観で通りの奥に視線や意識を誘導する



奥にあるものにふさわしいようなアプローチ（導入）部分

関連するパターン

こちらも参照してください

- ８　**生駒山の修験の領域**
- １１　**曲がった道**
- １２　**坂道の見上げと見下ろし**
- １５　**高低差の尊重**
- ２０　**聖なる場（パワースポット）**

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○寺院や神社は地域で大切にされてきた神聖な場所です。門前や参道の雰囲気を高めるよう、通りに沿ってデザインを計画しましょう。

近くに神社があることを暗示する
欄干のデザイン（高山町）

○通りから建物が直接見えないように軸線をずらして配置したり、手前に植栽をすることで奥行き感のあるまちなみを生み出すことができます。

門扉と玄関の位置をずらして、植栽の
スペースを生み出している

奥まったしつらえが期待感を生む

パターン
24

表出する緑

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

あふれんばかりの豊かな緑（東生駒）

敷地内では通常、日当たりを考えて南側に植栽や庭が配置されます。このため、東西方向の通りでは通りの北側に敷地内の緑がたくさん表出しています。一方、南北方向の通りでは通りに沿った連続的な緑は少なくなりがちです。

また、敷地内に確保できる緑のボリュームや配置は敷地面積によって異なります。敷地面積が大きいと建物周囲の複数の面にまとまった緑を確保しやすくなります。

計画的に開発された住宅地が多い生駒では、こうした傾向が明確に表れた地域がたくさんあります。

東西方向の通り

生駒台

南北方向の通り

西白庭台

・敷地の南側に庭がとられることが多い
・庭の緑が通りに表出する

165㎡程度
・南北方向の街区の場合には、敷地内にまとまった緑のスペースを確保することが難しい
（建ぺい率 50%）

180㎡程度
・東西方向の街区の場合には、敷地の南側に小規模な緑のスペースを確保できる
（建ぺい率 50%）

210㎡程度
・敷地内の南側にまとまった緑を、また西側や東側にも小規模な緑のスペースを確保できる
（建ぺい率 40%）

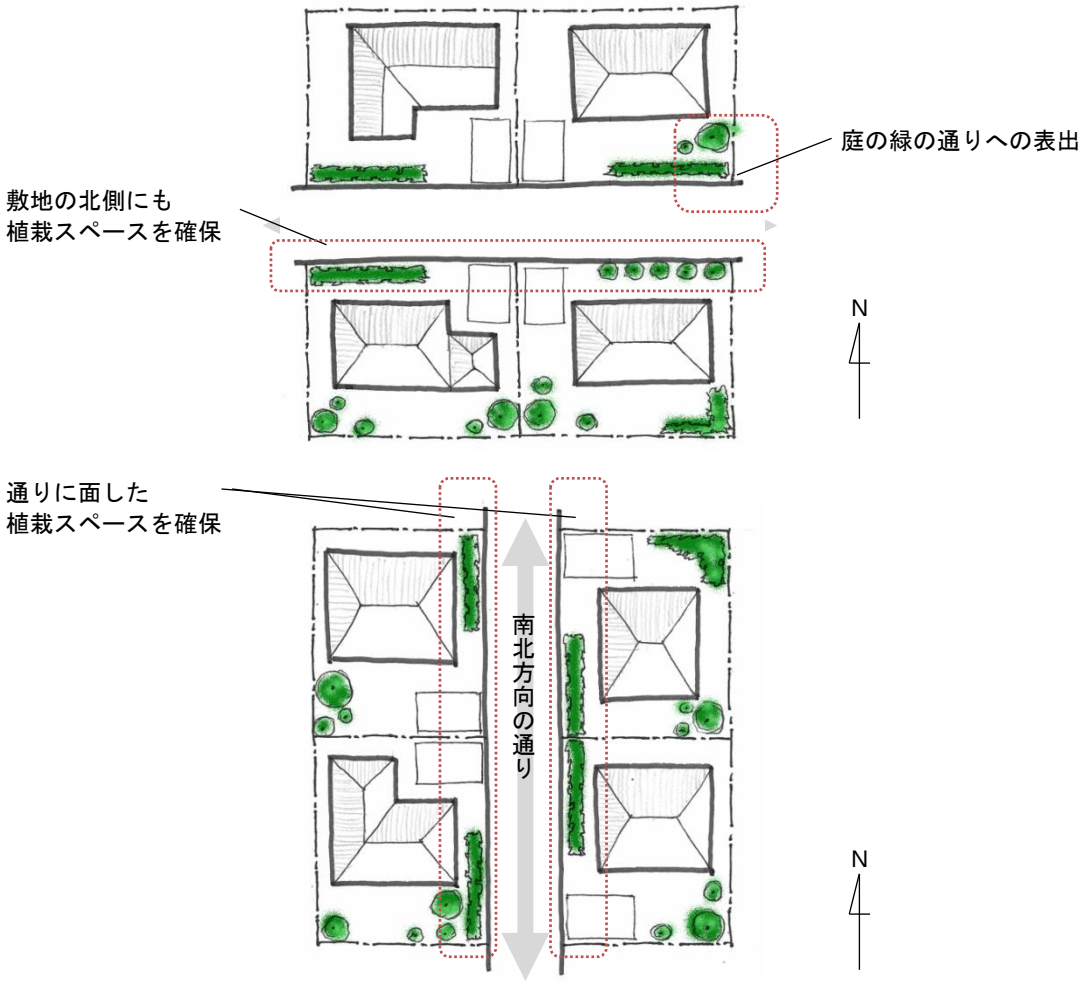
480㎡程度
・敷地内の建物の周囲にまとまった緑を確保できる
（建ぺい率 40%）

敷地の規模に応じた緑の特徴

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○東西方向の通りの南側に面する敷地には、道路際（敷地の北側）に緑化できるスペースを多めに確保するか生垣にしましょう。南北方向の通りに面する敷地は生垣とするか、街路樹を植えるなど緑の連続性をつくりましょう。

○緑の多いうるおいのある通りのまちなみづくりを目指すときには、できる限り敷地面積を大きくし、また細分化を防ぐようにしましょう。



関連するパターン

こちらも参照してください

- １４　**連歌式**
- １５　**高低差の尊重**
- ２２　**人にあった尺度**
- ２６　**しきりとつなぎ**
- ３０　**移ろいの風景**

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○通りから見えるところに緑ができるだけ多くなるよう、植栽スペースを確保したり、窓辺に花台を設けるなど花を飾れるようなしつらえにしましょう。

お店の窓辺に花を飾ることができるように花台を設けている

通りに面して植栽スペースが設けられている

敷地境界部に植栽を設けて、道路の植栽帯と一体となった緑豊かな空間をつくっている（白庭台）

○通りに面する擁壁を緑化したり、敷地内の緑が通りから見えるような工夫をしましょう。また、敷地内の緑が美しく見えるように、普段からの維持管理を心掛けましょう。

敷地内の庭の緑と緑化した擁壁が一体となって通りに緑が表出している

景観づくりに役に立つ植栽の仕方

植栽は日々の暮らしにうるおいをもたらすとともに、季節によって移ろい、様々な表情でわたしたちの目を楽しませてくれます。緑が多い生駒ですが、植栽の使い方を意識し、工夫することはとても大切です。

ここでは、その基本的な内容を紹介します。

●植栽の種類

・地被類・花卉（かき）類

いずれも地面に植えられるものです。地被類（芝生など）は直接自然に触れることができ、そこで遊び、憩い、寝転ぶといった人の活動の場になります。まちの気候の緩和などにも役立ちます。花卉類（花）は歩く人々の目を楽しませてくれます。

鹿ノ台

・低木類・中木類

手近な緑として、花や香りを提供してくれるだけでなく、敷地の境界部分に植えることで「まちの整理役」ともなります。わずかな土地でも植えることができ、土地と人、高木類とをつなぐ役割もあります。

・高木類

まちに自然の景観を提供してくれるもので、空気の浄化や騒音の緩和、防災や都市活動など様々な面で効果を発揮します。また、建物との調和にも役立ち、桜を愛でるといったレクリエーションの働きもあります。

●植栽場所の選び方

樹木の特徴に応じて植栽の場所を選べば、より効果的に緑を見せ、楽しむことができます。ここでは工夫の一例を示します。

・位置とバランスを考える

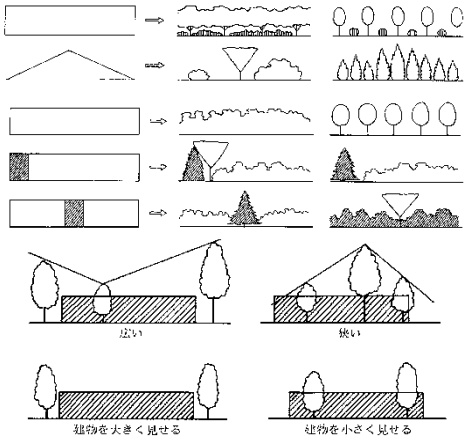
平面や立面で見たときに、植栽がバランス良く配置されているかを考えましょう。

・建物との関係を考える

植栽の位置によって建物の見え方も左右されます。建物との関係も考えましょう。

・緑の演出を考える

視線の集まる場所などに効果的に見せたい緑を置きましょう。



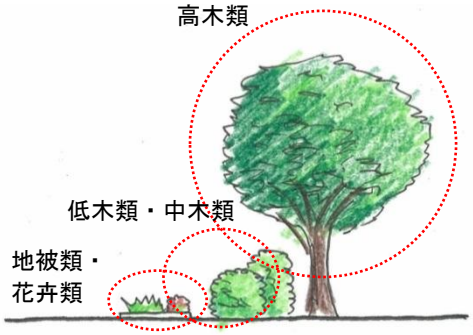
出典：『庭木と街路樹』

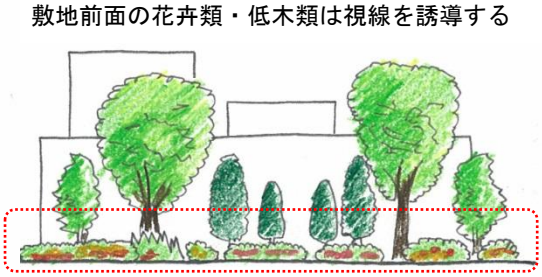
●樹木の特徴に応じた使い方

樹木には樹形や季節の変化などにそれぞれ特徴があり、それらの特徴を理解の上、うまく景観づくりにいかしていくことが大切です。

＜高さをいかす＞

- 高木類：樹高が高いので目に留まりやすく、シンボルツリーとして使用したり、建物との調和を図ったりするほか、街路樹などでまちの骨格・軸をつくったりするときに役立ちます。木陰ができるので、足元で人が憩う・行き交うような場所でも効果的です。
- 低木類・中木類：人の目線と同じ高さであり、演出を施して歩く人の目を楽しませることができます。また、敷き際に植えられることで境界をつくることができ、通りと敷地とをしきる・つなぐ役割も果たします。
- 地被類・花卉類：土地に定着したもので地面を覆うことから人工的な路面の印象を和らげることができます。色とりどりの花は歩く人の目を楽しませてくれます。



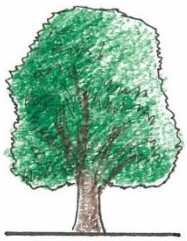


＜植生の特徴をいかす＞

- 針葉樹：濃い緑が特徴で、冬季に葉が落ちません。樹形も三角形の形が多くとがった印象であり、建物とあわせてシャープに見せたいときに効果的です。
- 広葉樹：常緑広葉樹は耐陰性が強く、冬季に葉が落ちません。落葉広葉樹は冬季に葉が落ちますが、色とりどりの四季の変化を楽しむことができます。
  樹形は丸型で枝葉が広がり、全体としてやわらかい印象であり、建物を緑にとけ込ませるときに有効です。また、木陰ができるので、人が通り集まる場所などに使うと効果的です。

針葉樹（スギ）

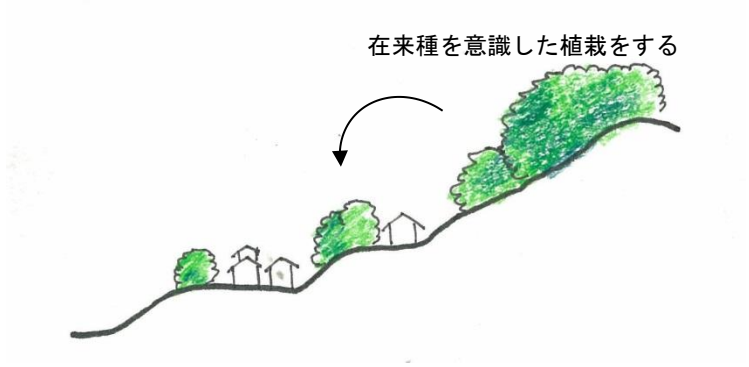
落葉広葉樹（ケヤキ）


常緑広葉樹（クスノキ）

＜周りの植生に配慮する＞

・樹種を選定するときには、その周りにある樹林地や、山すそ・丘陵地の樹種を調べるのも一つの方法です。より自然度の高い場所の在来種を選び、植えることで、エコロジカルなネットワークの形成に役立ちます。

・また、在来の生物と競合して生態系を損ねるような外来種の使用は避けるようにしましょう。



＜土地に合ったものを使う＞

土地の条件によって、適切な樹種を選びましょう。条件が合わないものを選ぶと、きちんと育たなかったり、維持管理が大変だったりします。

（例）土地の乾燥の度合い、風の度合い、日当たり　など

＜敷地の隙間、屋上や壁面などの緑化も取り入れる＞

敷地に余裕がない場合でも、わずかな隙間を活用した緑化も可能です。また、軽量土壌に地被類を使った屋上緑化、登はん型や下垂型の植物を使った壁面緑化などは、普段からの維持管理を心掛けることで、視覚的効果に加えてヒートアイランド対策にも寄与します。

フェンスの緑化（鹿ノ台）

緑のカーテン（高山町）

パターン
25

どこでも緑

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

周辺にも緑があるが、敷地内も緑化している（乙田町）

生駒の景観には必ず緑が存在します。周辺の山なみや樹林地、街路樹、神社や農地の緑を背景に、敷き際にも様々な緑が加えられ、景観に映り込んでいるのです。

このようにどこでも緑が映り込むことが、生駒らしいと感じられる大きな要因となっています。

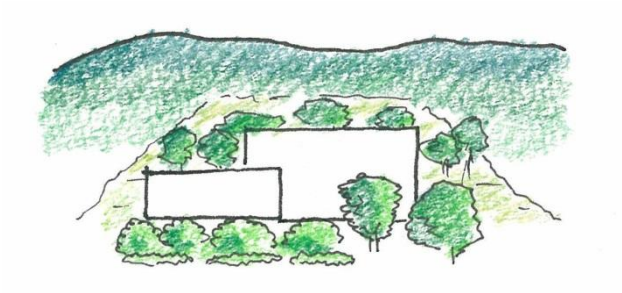
視界に必ず緑が登場します（白庭台）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

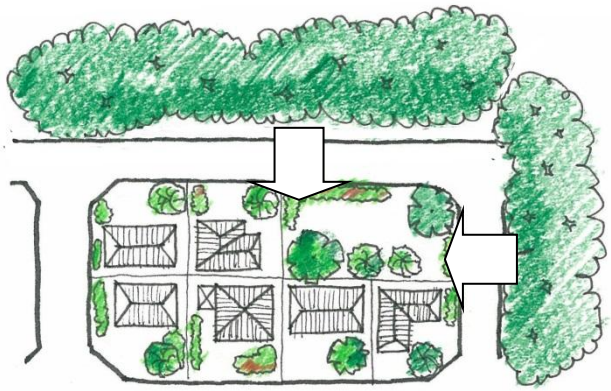
○緑が生駒らしさをつくる上で大切な要素であることを認識し、敷地の中でも積極的に増やすようにしましょう。

○敷き際など、良く見えるところに緑を配置しましょう。

○樹林地などを開発し、緑が失われることがあっても、その損ねた分の代わりとしてどこかで緑を確保するなど、緑を減らさないようにしましょう。



法面を削って造成するときも、できるだけ面積は小さくするとともに、代わりとなる緑を確保する



周辺の緑との連続性を確保する

関連するパターン

こちらも参照してください

- **１８　暮らしのにじみ出し**
- **２１　人の手が加わる余地**
- **２４　表出する緑**
- **２６　しきりとつなぎ**
- **３０　移ろいの風景**

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○緑があることが生駒らしさです。新たな開発地であっても、生駒らしさを損なうことは避けたいものです。既存の緑をできるだけいかした開発を考えてみましょう。

既存の樹林地を残した開発の例

斜面の樹林地をいかした開発の例

○緑が少ない場合は、積極的につくって、緑豊かな空間を生み出しましょう。

敷地内に緑を積極的に増やした例

緑視率とは

見える範囲における草木の緑の割合で、まちなみや地区など広い範囲を対象にしたときの指標として使われています。緑視率は敷地面積と関係があり、下の図だと、左は約 16%、右は約 13%です。

敷地が広いほど、余裕のある空間に緑を多く配置すると、奥行きのある景観になります。敷地に余裕が少ない場合でも、場所をとらない植栽を工夫すれば、表情を豊かにすることができます。

※間口緑視率の算出方法：
間口緑視率(%)=A（樹木・緑の立面換算面積）(㎡)／　B（緑化対象立面積）(㎡)×100
（A は樹高と本数の関係から、B は敷地間口延長から算出します）

楽しみながら緑を維持管理

開発のときに生じた斜面地の緑を敷地内に取り込んで、緑が眺められる、あるいは維持管理を楽しめる空間として提供する住宅地開発の例も見られるようになってきました。

身近に自然と触れ合える空間を維持管理することで、楽しみも増える、そんな空間づくりを売りに考えてみませんか。

パターン
26

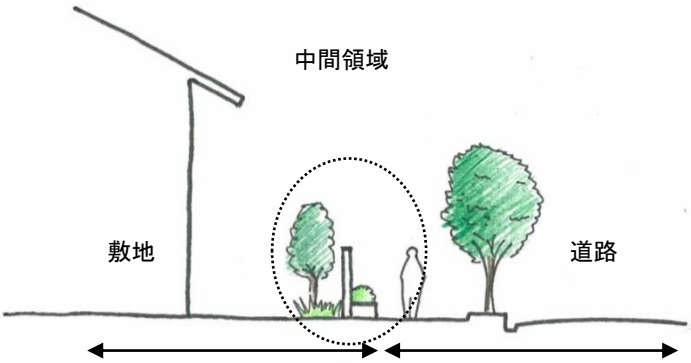
しきりとつなぎ

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

高低差を利用して「しきり」、通りと敷地は植栽でやわらかく「つなぐ」（高山町）

敷地と道路が接する敷き際は、公共空間と私的空間のつなぎ目、いわば中間領域です。この空間の使い方、「しきり方」と「つなぎ方」を工夫することで、通りの表情を豊かにすることができます。また、隣の敷地の敷き際と緑や壁面でうまくつながれば、一体感のある通りを演出でき、印象的なまちなみになります。このようなまちなみにあった適度なしきりの工夫が各所に見られます。



生垣が連続するまちなみ（東生駒）
整った敷き際でかたい感じのしきり

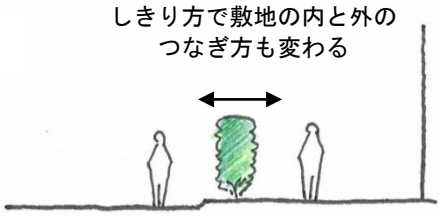
オープン外構のまちなみ（西白庭台）
敷地と道路をつなぐ

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○昔ながらの集落では「やわらかいしきり」にして親密な印象に、敷地規模の比較的大きい住宅地では「かたいしきり」にして風格ある印象にするなど、通りの特徴にあわせてしきり方を工夫し、連続感のあるここちよい通りになるよう配慮しましょう。

○緑やちょっとした空間などの配置を工夫して、隣近所の敷地と積極的につなぐことを心掛けましょう。また、植栽を使ってつなぐときは、まちなみが美しく見えるように、敷地内にきちんと配置し、普段からの維持管理を心掛けましょう。

○通り空間と敷地とのつなぎ方にも配慮し、暮らしの過度な露出を避けプライバシーを確保しながらも、暮らしの息遣いは伝わり、通りとのコミュニケーションを図ることができるようなつなぎ方の工夫を考えましょう。



関連するパターン

こちらも参照してください

- **１６　商いのコミュニケーション**
- **１８　暮らしのにじみ出し**
- **２１　人の手が加わる余地**
- **２４　表出する緑**
- **２７　受け継がれてきたデザイン**
- **２８　生駒石**
- **２９　仮設の風景**
- **３０　移ろいの風景**

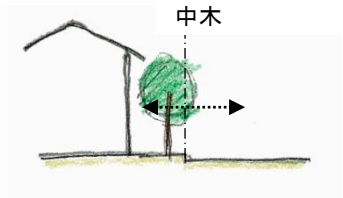
【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

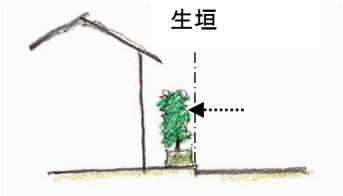
〇通りの特徴に合ったしきり方とつなぎ方を考えてみましょう。

【「しきり」の方法】

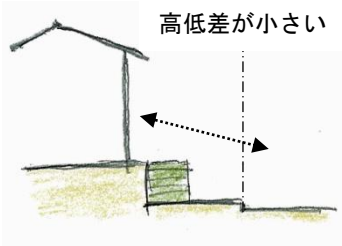
やわらかいしきり ⟷ かたいしきり

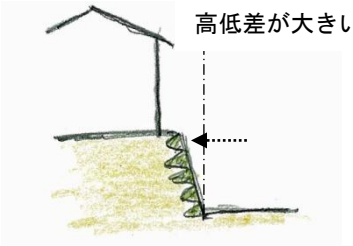
緑でしきる



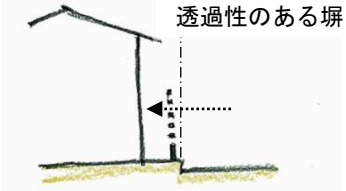


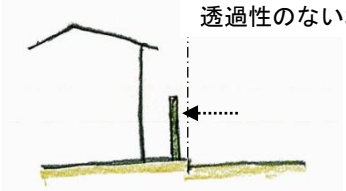
高低差でしきる





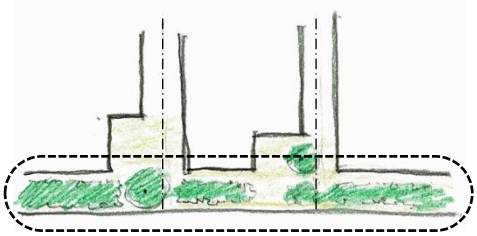
塀や垣でしきる





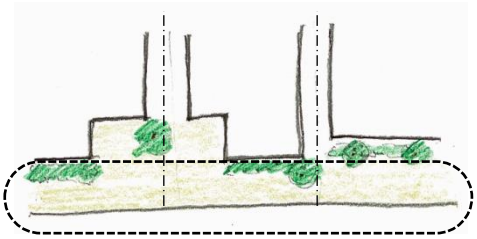
【「つなぎ」の方法】

緑でつなぐ



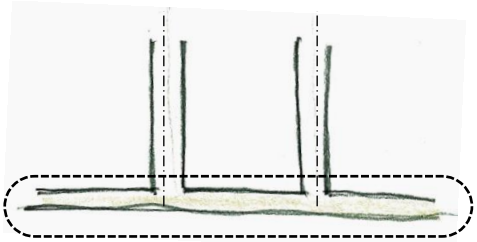
緑の連続

オープンスペースでつなぐ



オープン
スペースの
連続

壁面でつなぐ



壁面の連続

パターン
27

受け継がれてきたデザイン

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

大和棟の住宅（西菜畑町）

奈良盆地一帯で見られる、大和棟。生駒南部の地域ではカマドのある土間の部分の屋根には煙出しを設け、防火上の理由などから一段高く本高塀（ホンタカヘイ）を設ける大和棟の形態の民家が多い。

古くからの集落では、地域の風土に応じた暮らしの作法や生業の中で育まれ、長い時間をかけて磨き上げられてきた伝統的な形があります。それは敷地内の建物の配置であったり、建物内部の構成、立面の意匠であったりと様々なところに見られます。

これらの必要性から生まれパターン化された「受け継がれたデザイン」は多くの地域で共通のものもあり、また地域に固有のものもあります。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○人々の暮らしの中で育まれパターン化されている伝統的な形態や意匠は、その背景にある意味を認識した上で尊重しましょう。全面的に取り入れるばかりでなく、デザインモチーフとして一部を取り入れるなど、新たな使い方の工夫にも挑戦しましょう。

生駒の民家のデザイン

生駒で仕事をされてきた大工さんに、生駒の民家のデザイン上の特徴を教えていただきました。

- 建物の配置や間取りは、生駒近辺であればどこの地域でもだいたい共通している。
- 門口（入り口）や門は辰己（南東）の方向に配置し、門は入り口とは少しずらすように構える。道路からこの方角に入ることができるように、屋敷の敷地が立地した（道路の北側に敷地がある）。
- 屋敷の入り口は地域によっていろいろで、門をつくるのが普通とされるところと、門ではなく石積みと生垣が普通とされるところがある。
- 屋根勾配は、５寸から５寸５分勾配が標準で、豪華な母屋の屋根は、入母屋造りでむくりをつける。むくりは２寸垂木一本分（６㎝）つける。
- 南地域の大和棟では大棟よりも大屋根の妻側を一段高く設ける本高塀が多い。北地域では本高塀が少ない。

北田原町

関連するパターン

こちらも参照してください

- **１１　曲がった道**
- **１９　なりわいがつくる景観**
- **２２　人にあった尺度**
- **２６　しきりとつなぎ**

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○伝統的なデザインの背景には意味があることが多いものです。こうした意味合いを理解して、新しい視点から捉え直してデザインしましょう。

○過度な装飾やデザイン手法を駆使するのではなく、シンプルで形態の持つ本来の美しさを表現しましょう。

伝統的な大和棟を現代の建物にアレンジしてデザインしている（上町）

パターン
28

生駒石

【敷地】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

生駒石による石積み（東生駒）

生駒山の一帯でとれる生駒石は、表面の独特の風合いから庭石や石積みに使われてきました。集落内の民家はもちろんのこと、生駒台や東生駒などの住宅地内でも多く見ることができます。また、暗峠の石畳の石材としても使用されています。

地場産の材料を使うことで、運搬や施工の手間も軽減され、地域の風土になじんだ景観が生まれます。

暗峠の石畳（西畑町）

建築材料は現地調達が基本

生駒の大工さんによれば、「瓦は昔は南田原で焼いて製作していた」「壁の土は昔はそれぞれの家で山から取ったものを使っていた」「庭石や石垣の石は、生駒山麓で広く採石される生駒石が主流だった」というお話が出てきます。

昔は運搬の手段が発達していなかったので、できるだけ現地の近くで取れる材料を使うというのが基本だったようです。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○風土にとけ込む「地」が生み出した材料を積極的に取り入れましょう。生駒石を庭石に使うなど、デザイン要素としての利用を考えましょう。

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○石垣をつくるときはできるだけ生駒石を使いましょう。地場産の材料は地域の景観に一番なじみます。

○石垣以外にも庭石などいろいろな使い方を工夫してみましょう。

生駒石の庭石

生駒石を使った石垣と生垣（生駒台）

関連するパターン

こちらも参照してください

- **１２　坂道の見上げと見下ろし**
- **１５　高低差の尊重**
- **２２　人にあった尺度**
- **２６　しきりとつなぎ**
- **２７　受け継がれてきたデザイン**

パターン
29

仮設の風景

【時間】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

宝山寺のお彼岸万燈会では多くの蝋燭の明かりで参道から境内の周辺は幻想的な装いを見せる（門前町）

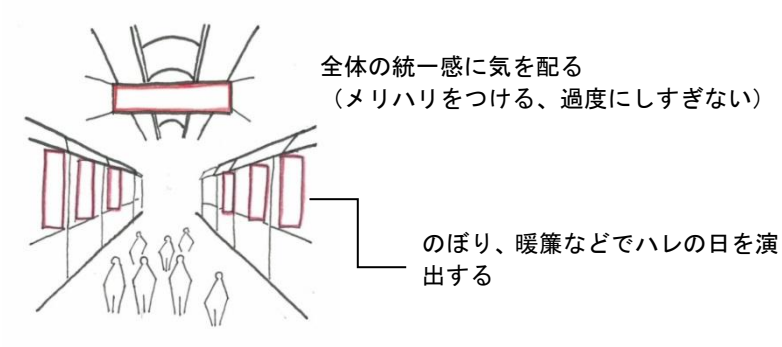
毎年めぐってくる行事や、お宮参り・七五三などの伝統行事は、暮らしの中に根付いた文化として受け継がれてきました。また、自治会や商店街で催されるお祭りなども同様に、人々の手によって継承されてきました。

これらの特別な時期には見慣れた景観も特別な装いを見せます。それは日常の景観に対し、一時的に表れるハレの日の仮設の風景でもあります。

灯りを楽しむ様子

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○祭りが行われる神社の参道や神輿、だんじりのルートなど、伝統行事の舞台となる場所ではハレの日の演出ができるようあらかじめ考えたデザインとしましょう。



○商店街ではイベントするときには、統一した横断幕やのぼりを飾るなど、通りでのにぎわいの演出を考えましょう。

100 円商店街（ぴっくり通り・元町）

○住宅地では近隣の人と協力して夜間のイルミネーションを飾るなど、暮らしの場を演出することもできます。

住宅地のイルミネーション

関連するパターン

こちらも参照してください

- **１６　商いのコミュニケーション**
- **２３　期待感**
- **３０　移ろいの風景**
- **３１　記憶の風景**

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○商店街でセールやイベントをするときにはにぎわいを演出するような飾り付けをしましょう。横断幕や暖簾で普段と雰囲気を変えることができます。

イベントに合わせた演出

○ハレの飾り付けができるようしつらえましょう。

100 円商店街ののぼりとポップ（ぴっくり通り・元町）

七夕の飾り付け（東生駒）

七夕の飾り付け（元町）

パターン
30

移ろいの風景

【時間】

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

季節によって移ろいを見せる景観（西畑町）

一日のうちでも昼間から夕暮れ、夜間へと時間帯によって刻一刻とまちの表情は変わっていきます。また、晴れた日と雨の日でもまちの印象は変わります。季節によっても背景の自然や人々の営みが異なるため、まちの景観も違って見えます。

夜間には細かなところが見えないので、昼間よりもすっきりと整理された印象となります。また、照明によって印象は大きく変わります。

雨の日などに建物や道路が濡れているときには晴れた日とは質感が異なって見えます。また空の色や陽の光の強さはまちの印象にも影響します。

山などの自然の景観や街路樹、公園の緑は季節によって異なる表情を見せます。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○紅葉する樹木や落葉する樹木、実のなる樹木など季節感を感じられる樹木、あるいは花の植栽による季節感の演出に配慮しましょう。

花などで季節感を演出する（生駒駅前・元町）

雨の日は普段の道路も印象が変わります（仲之町）

○お店などは夜の装いを考えた夜間照明を工夫しましょう。安全上必要な明るさを確保しつつも、必要以上に明るすぎず、陰影による効果的な演出を心掛けましょう。

関連するパターン

・２９　仮設の風景
・３１　記憶の風景

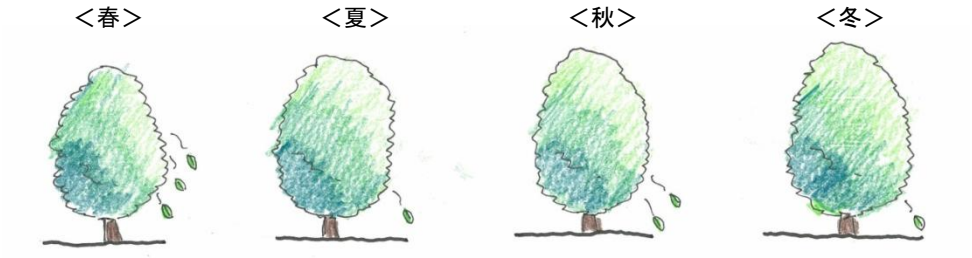
こちらも参照してください

緑の移ろいを景観にいかす

樹木は、一年中緑の葉を付ける常緑樹と、秋から冬にかけて紅葉し葉を落とす落葉樹とに大きく分けられます。これらの緑の色をうまく使うことで、まちなみは変化に富み魅力的なものになります。

これらの特徴を十分理解し、敷地に緑を配置するようにしましょう。

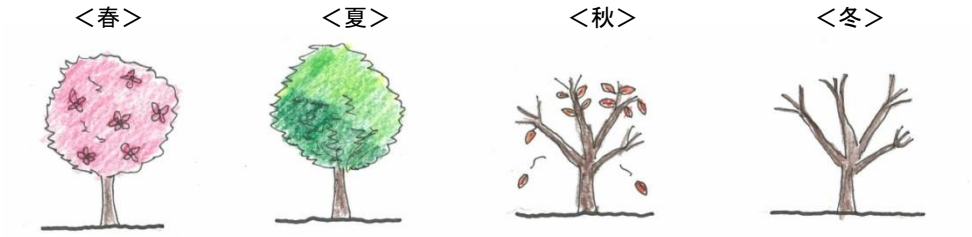
常緑樹（シラカシの場合）



＜春＞	＜夏＞	＜秋＞	＜冬＞
葉がやや多めに落ちる 花がひそかに咲いている	葉がやや落ちる	葉がやや多めに落ちる 実（ドングリ）がなる	葉がやや落ちる

代表的な樹種
（高木・中木）アカマツ、アラカシ、イヌマキ、キンモクセイ、クスノキ、クロガネモチ、サカキ、サザンカ、サンゴジュ、シラカシ、スギ、タブノキ、ニオイヒバ、ヒマラヤスギ、モチノキ、モッコク、ヤブツバキ、ヤマモモ
（低木・地被植物）クルメツツジ、サツキツツジ、シャリンバイ、ジンチョウゲ、センリョウ、トベラ、ヒサカキ、フッキソウ、マンロウ、ヤブコウジ

落葉樹（ソメイヨシノの場合）



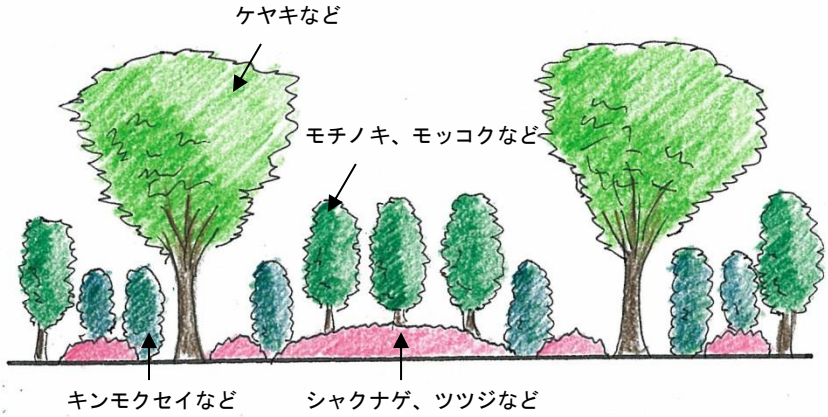
＜春＞	＜夏＞	＜秋＞	＜冬＞
花が咲く 新芽が出る	葉が茂る 実がなる	紅葉して落葉する	葉が完全に落ち 幹と枝ばかりの姿となる

代表的な樹種
（高木・中木）アキニレ、イチョウ、イヌシデ、イロハモニジ、ウメ、エノキ、カキ、ケヤキ、クヌギ、コナラ、コブシ、サルスベリ、シダレヤナギ、シラカンバ、ソメイヨシノ、ハナミズキ、ヒメリンゴ、ムラサキシキブ、ヤマボウシ
（低木・地被植物）アジサイ、ガクアジサイ、コデマリ、シモツケ、ドウダンツツジ、ニシキギ、ヒュウガミズキ、ヤマブキ、ユキヤナギ、レンギョウ

参考書籍：『110 のキーワードで学ぶ 世界で一番やさしい住宅用植栽』

常緑樹や落葉樹などの種類を組み合わせて植栽に使うと、季節によって表情が変わります。下記はそのイメージ例です。

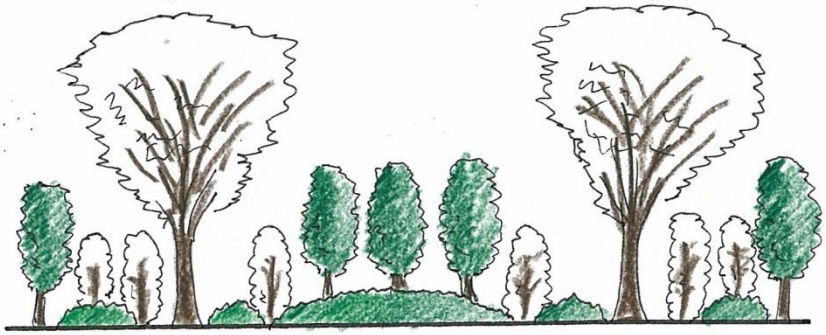
春
・新緑で芽吹き、若々しい緑色が印象的
・花が咲き誇り、視線が足元に集まる



夏
・葉が茂り、緑の勢いが際立つ

秋
・落葉樹は紅葉、色づいて落葉する
・常緑の緑と紅葉の赤・橙などとの対比が見られる

冬
・落葉樹は枝のみになり、常緑樹のみが葉を残す



参考書籍：『庭木と緑化樹』

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○道行く人が季節感を感じることができるよう、通りから見えるところに植栽スペースや花を飾るスペースを設けましょう

玄関先に季節感のある花を飾っている（鹿ノ台）

里山的な植生を目指して、様々な樹種を混ぜている

○通りから見える位置に花の咲く木や実のなる木を植えて季節感を演出しましょう

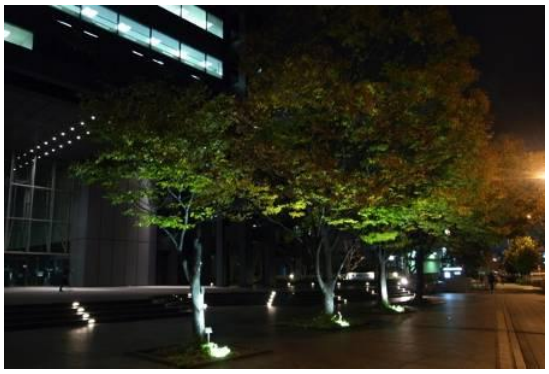
花のなる木、実のなる木

○お店では閉店後の見え方も意識しましょう。閉店後も部分的にショーケースを照らすことなども考えてみましょう。

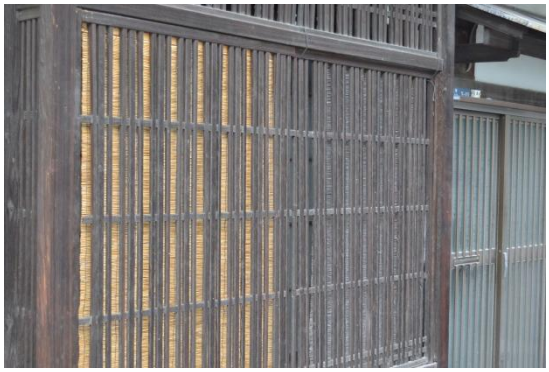
閉店後にもショーウィンドウを照らしている

○間接照明や複数の光源を効果的に使うことで立体感を表現することができます。

複数の光源で建物を立体的に演出している


敷地内の植栽を色温度の高い光源で効果的にライトアップしている

○石材や木材などの自然素材などを使って、時間とともに風合いを深まることを考えてデザインしましょう。


時間を経て風合いが深まる（元町）

パターン
31

記憶の風景

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう

門前町の風景（昭和 40 年頃）　出典：『写真で見る 100 年』

わたしたちは同じ風景を見ても、一人一人の経験や知識によって心に浮かんでくるものや記憶に残るものは異なります。それぞれの心に残るものこそが景観であるともいえます。多くの人の記憶に共通して残るなつかしい景観は生駒のイメージをつくるものであり、大切にしていく必要があります。

学校の校歌には、後世に伝えていきたいふるさとへの思いが託されてきました。また、古くからの地名の中には先人が土地に対して抱いた印象や思いが語り継がれてきたものがたくさんあります。これらは多くの人が持っている記憶の風景を探る手がかりとなります。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○地域に根ざした景観をつくっていくために、先人が伝えてきた風土への思いを確認しましょう。そして、それぞれの場所の性格に応じて印象的な景観の要素となるデザインを工夫しましょう。それが多くの人の記憶に残る景観をつくります。

○場所の記憶を継承していくため、空間の構成を大きく変えないように配慮したり、なつかしさを感じさせるものを残すなどの工夫を考えましょう。

【生駒らしさの工夫】こんなことやってみましょう

○建物を改修するときは、もともとの建物の印象を継承すると場所の記憶を継承することができます。

もともとの建物のデザインを継承し改修したお店（元町）

○みんなの記憶にあるものはできるだけ残しましょう。そのまま残すだけでなく、象徴的な形や空間の特徴を継承するなど工夫しましょう

かつての線路の形状をシンボル化して公園に埋め込んでいる

関連するパターン

こちらも参照してください

- **１　生駒のシンボル・生駒山**
- **９　顔となる空間**
- **１１　曲がった道**
- **１３　通りのプロポーション**
- **１９　なりわいがつくる景観**
- **２０　聖なる場（パワースポット）**
- **２２　人にあった尺度**
- **３０　移ろいの風景**